



一般社団法人
日本ヘルスケア歯科学会
事務局 東京都文京区関口1-45-15-104
Tel. 03-5227-3716
Fax. 03-3260-4906
URL <http://www.healthcare.gr.jp>
E-mail : center@healthcare.gr.jp
編集代表 林 浩司
編集制作 有限会社 秋 編集事務所

学会入会金	歯科医師	5,000円
	その他	3,000円
学会年会費	歯科医師	12,000円
	その他	3,000円
郵便振替口座	00190-7-407895	
名義	一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会	
銀行振込口座	三菱UFJ銀行 江戸川橋支店	
	普 0051809	
名義	一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会	

CONTENTS

巻頭 今後の展望	p.1	第5期3回オピニオンメンバー会議 報告	p.16
2020年度の活動報告と今後の方向性	p.2	第6期1回オピニオンメンバー会議 案内	p.17
Healthcare bibliography	p.7	ほっとひと安心 新しいBig Sur (MacOS11.0.1) で	
ヘルスケアミーティング2020 報告	p.8	ウィステリア 6.0の動作確認	p.18
認証ミーティング 案内	p.9	ウェビナー告知板	p.19
事務局から	p.9, 19	ヘルスケアミーティング2021 案内	p.20
ウェビナー開催報告	p.10		

催しものご案内

- | | |
|---|--|
| ①ヘルスケア オンラインサロン
日時：2021年1月12日(火)
内容：演者の話を鵜呑みにしてませんか？ | ④ヘルスケア Web セミナー
日時：2021年1月20日(水)
内容：カリエスマネジメントセミナー
第7回 |
| ②ヘルスケア Web セミナー
日時：2021年1月13日(水)
内容：カリエスリスクアセスメント標準化
の実際 | ⑤ヘルスケア Web セミナー
日時：2021年1月22日(金)20:00～
内容：カリエスマネジメントセミナー |
| ③ヘルスケア オンラインサロン
日時：2021年1月19日(火)
内容：スタッフが辞めない歯科医院とは？
第2弾 | ⑥ヘルスケア オンラインサロン
日時：2021年1月26日(火)
内容：「動画コンテンツの活用」について
話そう！ |

重要なご案内

- 以下の同封物をご確認ください
- 2021年度会費振込用紙
当学会の会計年度は1月から12月までです。2021年度会費の振込用紙を同封いたしましたので、お近くの郵便局からお早めにお振り込みくださいますようお願い申し上げます(行き違いになりましたらご容赦ください)。
 - オピニオンメンバー信任
投票用紙・返信用封筒



今後の展望

杉山精一 (日本ヘルスケア歯科学会 代表)

11月に入り新型コロナウイルス感染者数が急増し、4月の第一波、8月の第二波に続く第三波となり、全国の1日あたり感染者数が連日最多を更新するなかで、ヘルスケアミーティング2020とオピニオンメンバー会議が行われました。

昨年のヘルスケアミーティング2019は、台風のため1日だけの開催となり参加を取りやめた人も多く、今年こそは秋葉原に多くの人が集まって盛り上げたいと考えていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、当初のプログラムを大幅に変更して、両国KFCホールのリアル会場とZoomを使ったハイブリッド方式で開催となりました。Zoomは3月のオピニオンメンバー会議で簡単に安定して使えることを確認できたため、夏からオン

ラインサロンを16回、セミナーは13回開催して、Zoomの運営にだいぶ慣れてきていましたが、東京と大阪のパネリスト、リアル会場の複数のカメラ、参加者はZoomとYouTube配信といった複雑な設定で行うのは初めてでした。幸い大きなトラブルなく無事に終えることができましたが、これは、事務局スタッフによる複数回の事前テストやオンラインサロンとセミナーのサポートをしているweb委員会の方々の経験によるものです。この場を借りて感謝申し上げます。

私たちの学会は、会の設立趣旨に賛同した人が集まっている会です。どのようにしたら、設立趣旨にあるような歯科医療を実現できるようになるか、自ら考え、実践し、仲間と相談し、教えあい、そして、

新たな目的に向けた臨床研究やプロジェクトを立ちあげてきました。会員が出会い、知識や経験を共有し、よりよい臨床に進むために、セミナーやヘルスケアミーティング、そして懇親会を行ってきました。しかし社会状況はすっかり変わり「密」を避けて「Social Distance」が必要です。私たちが社会の変化に対応して学会活動を続けていくことが大事です。

LINE を開始

学会からの情報をタイムリーに届けるために、ツイッター (Twitter)、フェイスブック (FB) に続いて LINE を始めました。多くの人がほぼ毎日使っている LINE でオンラインサロン、セミナーなどの情報をタイムリーに提供しますので、必ず登録をお願いします。会員でなくても登録できますので勤務医やスタッフなど、ヘルスケア歯科学会の活動に興味をもった人には登録を勧めてください。



Zoom をもっと活用

Zoom の活用で、距離を意識することがなくなりました。セ

ミナー参加のための移動時間と費用は不要です。診療後にスマホ、タブレット、パソコンで簡単に参加できます。学会の委員会もメールに加えて定期的に Zoom 会議を行うことが普通になりました。Zoom は、主催する人がリンクを参加者に送れば、そのリンクをクリックするだけで簡単に使える便利なツールです。症例検討にも最適です。先日熊本、埼玉、千葉を Zoom でつないで症例検討をしました。実に快適にリラックスして話ができます。

コロナ禍の終わりはまだ見えないけれど

北半球が本格的な冬に入るこの先、新型コロナウイルス感染症がどのように推移するかまったく予測はつきません。想像もしなかった社会状況ですが、幸いなことに、インターネットと便利なアプリを使ってコミュニケーションができる時代です。これらを活用すれば、今まで以上に会員同士が交流することが可能になりました。臨床経験のある人は若い人と、ヘルスケアでベテランの人は新入会員と、お互いに、知識と経験と熱い思いを、画面越しに語り、共有して、次世代のヘルスケアを築く年の始まりとしていきましょう。



2020 年度の活動報告と今後の方向性

□ 会誌編集委員会

千草隆治 (千草歯科医院・福岡県北九州市)

学会誌は学会の財産

1998 年に本学会の前身である日本ヘルスケア研究会が発足して以来、毎年 1 冊の会誌を発刊してきましたが、現在の会誌編集委員会が組織されたのは、2011 年に研究会から学会になった 2 年後で、会誌としては第 14 巻から始まり、今年は第 21 巻を編集しました。委員会を発足したときは、「自分たちの学会の会誌を自分たちで編集するために」「自分たちの学会にふさわしい会誌とはどのようなものか」ということを何度となく委員内で意見交換しました。研究会時代は、コアメンバーの秋元秀俊さん率いる秋編集事務所に編集作業を一任していましたが、本委員会の発足後は、査読・編集体制を整備し、投稿者・査読者・編集者・制作者が One Team で論文を、そして学会誌を成立させています。組織の取り組みや業績を文章として蓄積していくことは、学術組織として必要不可欠で、その



意味では学会誌は学会の財産とも言えます。

総説、原著、症例報告、調査報告、臨床ノートの 5 種類の 카테고리

昨年からはオピニオンメンバーの宮本学さんを委員長とし、6 名の委員で活動を行っています。さらに、制作部として活躍していただいている秋編集事務所の宮本早苗さんとも綿密に連絡を取り合い、またもちろん、秋元さんには編集会議にも参加していただいで適時、貴重なアドバイスをいただいています。例年、編集スケジュールに沿って 6 月から 12 月まで投稿された論文の編集活動を行っており、それ以外の半年間は投稿の打診、あるいは依頼を行っています。論文のカテゴリは、総説、原著、症例報告、調査報告、臨床ノートの 5 種類です。総説はヘルスケアミーティングの基調講演や教育講演の演者に、症例報告は同じくヘルスケアミーティングや認証プレゼンのケースプレゼン、ポスターの発表者に投稿を打診し、依頼します。調査報告は学会や地方会、個人が行った調査を取りまとめた論文文化してもらうよう依頼します。臨床ノートは診療所での新たな取り組みを投稿していただきますが、これまでは依頼というよ

りは自主的な投稿がほとんどです。そして同じく原著論文も大学研究者への依頼を除けば、会員からの投稿は自主的なものがほとんどです。会員からの原著論文は診療所に蓄積された臨床データを利用した後ろ向きコホート研究が主体となっています。

原著論文に準ずる論文を年5編以上

学会では発足時に挑戦し、一度は断念した日本歯科学会認定分科会となることを再び目指すことを決めました。そのための条件の一つに、「学会誌に原著論文に準ずる論文を年5編以上掲載すること」があります。私たちの委員会が直接、認定分科会対策を行うわけではありませんが、年5編以上の原著論文を編集する作業を担うことになります。これまで以上の負担が委員にはかかるわけですが、より充実した会誌となる機会と捉え、委員一同前向きに取り組んでいます。

会員のみならず、学会誌の充実のため、論文投稿者として、あるいは査読者、編集者として一緒に関わってみませんか。

□ 企画育成委員会

高橋 啓 (たかはし 歯科・愛媛県南宇和郡)

企画育成委員会とは

日本ヘルスケア歯科学会主催のセミナーを企画運営する委員会です。現在のメンバーは、高橋、杉山精一さん、藤木省三さん、丸山和久さん、渡辺 勝さん、高木景子さん、堀坂寧介さん、田中正大さん、岡本昌樹さん、山本修平さん、中本知之さん、丸山俊正さんの12人で活動しています。月に1回程度WEB会議を開催して、いろんな意見を出し合いながら、学会主催のセミナーをより良いものにするべく活動している次第です。



セミナーや交流をオンライン化へ

リアルに集まるセミナーは、現在停止中です。ただ、この企画育成委員会はコロナ禍でもずっと活動を続けてきました。セミナーをオンラインに変える対策は、3月から動き出していました。その後、テストセミナーを繰り返し、Zoomやウェビナーのシステムを構築して現在に至ります。コロナ禍でも、無料で会員が集まれる場を作ることが大事だとの意見から「無料で参加できるオンラインサロン」も立ち上げて、毎週火曜日の20時30分から6分開催しています。内容は、主にコアメンバーがホスト役をして、会員の情報交換の場として活用してもらっています。コロナ禍で感じたことは、いろんな所から情報を得ることの大切さです。今後はオンラインサロンも状況を見て、このまま続けるのではなく進化していく予定です。開催予

定は、ホームページに随時アップされますので、そちらでチェックをよろしくお願いします。

今後のセミナー（ウェビナー）予定

有料セミナーの予定もホームページにアップされますので、チェックをお願いします。また、日本ヘルスケア歯科学会のTwitterやLINEに登録すると情報も流れてきますので、そういった方法もあります。

さて、高橋が把握しているセミナー情報を挙げておきます。

- ・杉山さんのカリエスマネジメントセミナーは、毎月1回開催される予定です。
- ・斉藤 仁さんのいろんな角度からのセミナーも毎月1回開催中です。
- ・2021年3月31日（水）には、高木さんの禁煙支援セミナーもあります。
- ・東京ベーシックに変わる3回コースのオンラインセミナーも開催予定です。（①2021.6/9 ②7/14 ③8/4）

有料のセミナーは、会員のために格安の1アカウント3,000円で参加できます。もし、時間が合わなければ、後から1ヵ月はアーカイブ配信で視聴することもできます。スタッフは後日視聴することも可能です。ぜひ、医院のスタイルに合わせてご参加&ご活用ください。

実際のセミナーに参加してみよう

当院のスタッフ全員で10月15日の午前中のみで開催されたカリエスマネジメントセミナーに参加しました。杉山さん、中本さん、落合真理子さん、大本幸加さんによるセミナーは、とてもわかりやすく、当院スタッフのCRASP実施率が格段に上がりました。医院に来院するすべての患者さんに等しく、カリエスマネジメントをしましょう。カリエスマネジメントは、来院するほとんどの人に必要なのは、皆さん周知の通りです。コロナ禍を理由に、医院で勉強する習慣を止めてしまうのは、とても残念です。また、その習慣を取り戻すのにとても時間を費やすことになるでしょう。このような状況でも、コツコツ勉強は続けて、医院の成長につなげていきましょう。

今後のセミナーの方向性

現在、オンラインに移行していますが、ヘルスケアは実際に集まる関わりをととても大切にしてきた学会です。今後もそれは大切にしていきます。ヘルスケア診療の実践のために、オンラインをフル活用していくことも検討していきますが、リアルな集まりも可能になれば、再開していきます。みなさん、世の中がこんな状況ですが、我々は本業の勉強もコツコツ続けていきましょう。

□ ウィステリア委員会

丸山和久（丸山歯科医院・兵庫県神戸市）

ウィステリア ver.6 のリリース

まずウィステリア ver.6 のリリースについてお伝えしておきます。リリースが遅れており申し訳ありません。ソフトそのものはほぼ完成しているのですが、マンパワー不足により FileMaker Pro や MacOS のバージョンアップへの対応が遅れていることが原因です。来春には既ユーザーのバージョンアップ（ウィステリア ver.4 や ver.5 から ver.6 へ）を含めて、晴れてリリースの予定です。院内 LAN 含めてパソコン複数で新規導入予定の方、ウィステリアのバージョンアップを機会に FileMaker Pro も新しくされる予定の方で、ご不明点のある場合は、事務局までお問い合わせください。

また ver.6 では多くの機能が増えますが、変更点については来年のニュースレターで紹介していく予定です。なおウィステリアで CRASP ソフトが使えることも ver.6 の利便性の一つです。CRASP ソフトを単独で使っている方も、ver.6 導入時にデータを移行させることができます。カルテ番号だけは入力しておいてください。

ウィステリアの持続と普及のための新委員会

さて、これまでウィステリア委員会は開発と普及を目的としてきました。これからも必要に応じて開発し、本学会独自のソフトとして広く利用してもらえることを目指していくことには変わりありません。ただ、ウィステリアの使い方をわかりやすくお伝えしたり、ver.7 をにらんで活動したりする開発チームを独立させます。そして今後新・ウィステリア委員会はウィステリアを今後もずっと安定して提供できるようにするために、またその位置づけや将来像を明確にしていく場にしていく予定です。メンバーはコアメンバーばかりで構成されていますが、ユーザーの皆様にはご意見ご要望をぜひお寄せください。

リリースの遅れとともにこのコロナ状況下で、ウィステリアセミナーも中止されたままです。動画での配信、WEB でのセミナー開催も検討中です。

□ ニュースレター委員会

林 浩司（はやし歯科医院・栃木県真岡市）

2018 年 3 月のオピニオンメンバー会議の際、ニュースレターの更なる充実を図る目的でニュースレター委員会が発足しました。その後、メーリングリストを使ってメンバ



ーで話し合い、いくつかの改善をおこないましたが、いつのまにか活動が停止している状態となっていました。

ところで、この学会ではコロナ禍に入り今までのリアルに集まるセミナー、ミーティング、ワンデー等はすべて中止となってしまいました。その代わりにオンライン上でのセミナーやサロンが開催され、その報告がメインのニュースレターになってきています。

さて、今回の会議ではオピニオンメンバーの活発な学会への関わりを提案しました。そこで、この委員会の在り方をもう一度見直してみたいと思っています。幸いオンラインでの会議が簡単に活用できるようになりました。フェイストゥフェイスによる委員会の集まりを 1～2 ヶ月に一度行い、会員にとって魅力のあるニュースレターを作っていければと考えています。

全会員に年 5 回配布されるニュースレターですが、どんな内容がいいのか一緒に考えませんか？ スタッフの方も大歓迎です。興味がある方はぜひ、よろしくお願ひします。

□ オピニオンメンバーの活動

岡本昌樹（おかもと歯科医院・栃木県栃木市）

オピニオンメンバーは、定款上は公益法人の評議員の役割を持ちますが、法人設立に際して、本学会の活動に各々が独自の意見をもって積極的に関わっていくことを期待して「オピニオン」という名称を冠しました。期せずして新型コロナ感染拡大に伴う様々な行動規制という、社会にとっても本学会にとっても大きな変化のなかで、オピニオンメンバーの改選を迎えました。これからの 2 年間、今まで学会活動の担い手として十分に生かしきれなかったオピニオンメンバーの役割を明確にするとともに、各メンバーには今後設置される委員会等への積極的な参加を留任、新任の際に承諾いただきました。

本学会は、ヘルスケア診療を診療所単位で実現するための学会であると同時に、一人の歯科医師や一つの歯科診療所では実現できない医療・教育・資格・社会保険などの制度の改革や、研究、学問、国際協力などにより専門家の共通理解をつくることを目的としています。新オピニオンメンバーにはそれぞれの分野での経験、知識を活かして本学会の発展を支えていただくことを期待いたします。

コアメンバーでは以下の様なフレームを考えていますが、具体的な内容、活動については、今後意見を出し合いより充実したものにしていきたいと思ひます。

① 役割の明確な委員会

既存の組織：会誌編集委員会、企画育成委員会、ウィステリ

ア普及委員会 など

②プロジェクトチーム

メンバーの創意で具体的課題をスケジュールにのせて行動するチーム、会員外の参加も可

案：次世代の学会のあり方を提言するプロジェクトチーム、禁煙支援プロジェクトチーム、CRASP 普及プロジェクトチームなど

③フォーラム（比較的経験を積んだ者が共通のテーマで意見を交換する集い）

案：保険診療フォーラム、学校医フォーラム、地域活動フォーラム、インプラントとヘルスケアなど

□ 認証ミーティングの今後

齊藤 仁（さいとう 歯科室・北海道札幌市）



今年の認証ミーティングは、四国・関西方面を中心に10医院がエントリーし、7月12日に開催を予定していましたが、コロナの影響を考え、4月のコアメンバー会議にて延期を決定しました。せっかく準備を進

めていたところで延期となり残念ではありますが、逆に時間の余裕ができたことで、プレゼンの精度を上げることが可能となりました。

そこで、コアメンバーの高橋 啓さん、千草隆治さん、齊藤が中心となって、参加医院の認証ミーティングに向けての勉強会を行うことにしました。3つのグループに分け、毎月一回、3～4医院ずつ、Zoomを使って本番と同じように、時間を計測し、プレゼンをしてもらっています。

それぞれこ仕上げてくる医院、まだまだ改善の余地がある医院、さまざまですが、丸山和久さん、渡辺 勝さんの2名を加えたコアメンバーから、よかった点、悪かった点を指摘してもらい、本番に向けてブラッシュアップさせようと試みています。

今年はたまたま一年の猶予期間があったためこのような取り組みが可能になりましたが、参加者も採点するコアメンバーも余裕を持った準備ができることがわかりましたので、来年以降もエントリーを目指す医院には一年くらい前から申し出てもらい、今回のような勉強会ができるように計画していきたいと考えています。

今年の延期分は来年の4月11日に認証ミーティングを予定しています。今年のヘルスケアミーティング2020と同じように、実際の会場開催にZoomを使ったオンラインを併用して行う予定です。

□ 歯科衛生士育成プログラムの今後

田中正大（田中歯科クリニック・埼玉県川口市）



2006年に始まった基礎コースも2019/2020年で第14期となり現在173名の認定歯科衛生士が誕生し、各診療所はもちろんのこと、学会で、また育成プログラムのスタッフとして活躍する多くの歯科衛生士を輩出し、学会の中心となる事業となっています。

延期になっていた第14期基礎コースは2021年3月20-21日の連休に行くことになりました。新型コロナの感染拡大が続く現在ですが、感染対策に万全を期すため内容をアレンジして開催することにしました。

来年度以降のプログラムですがコロナ禍にあってこれまでのような開催方法を継続していくことは難しく、新たな形態でのコースを企画しています。

具体的にはこれまでの2日間3回のコースを同じ内容でオンライン講義+3日の実習+検定という形式に組み替えて関東・関西それぞれ10人程度の定員で大学や専門学校ではなく一般の診療所を借りて開催する方向で検討しております。

実技検定会も同様の開催方法とするつもりです。

開催方法・日時の正式なアナウンスまでは今しばらく時間がかかると思いますが、2021年度中には基礎コース+実技検定会の開催を目指しております。準備が整うまでもう少しお待ちください。

□ オンラインサロンとWebセミナー

渡辺 勝（わたなべ 歯科・埼玉県春日部市）



WEB委員会の立ち上げ

今年は、いまだかつてない予想ができない激動の年でした。コロナ禍が始まり、4月に緊急事態宣言が発令されると、まずは自分の医院をどうしていくか？前例のない出来事への対応で、みなさんが右往左往していたと思います。そんななか、コアメンバーでは、会員間のコミュニケーションを閉ざしてはいけない。学びの継続を止めないようにしていこう！と考え、高橋さんがWEB委員会を立ち上げメンバーを集め、渡辺がZoomに関して皆さんのフォローをしながら、毎週火曜日にオンラインサロン、不定期でWebセミナー（ウェビナー）を開催してきました。WEB委員会の方々のサポートのおかげで、様々なセミナーを成功させることができました。

回を重ねるたびに充実したオンラインサロン

試験的に始めたオンラインサロンは、回を重ねるたびに充実してきました。毎回違うホストが、それぞれ違ったやり方、テーマで行ってきましたが、WEB委員会の方々は、それぞれ入念に準備をして臨機応変に対応してくださいました。コアメンバーや、一部のオピニオンメンバーがホストを務めてくださいましたが、普段、講演でスピーカーとして見せる顔だけでなく、本音での話、実際の現場での対応を赤裸々に応える場面、そしてそれに呼応するように参加者からも実体験、お互いがアドバイスをする場面も所々見られました。テーマも、大人数の講演会では取り上げられにくいことなども含まれており、参加者にとってとても有意義なものとなっていたようです。

ライブ感のあるオンラインサロンに

今後は、さらに皆さんが参加しやすく臨機応変に対応し、進化させていく予定です。具体的には、若い方がより参加しやすいように、開始の時間帯を30分遅くし午後8時半からのスタートにしました。また、オンラインサロンは、対談形式なども取り入れていき、リアルなライブ感があるものに変えていきます。ウェビナーも、コース形式を増やしていきます。大好評の杉山代表のカリオロジーのコースは定期コースに進化します。

皆さんも、参加して一緒に作り上げて行きませんか？ 普段、学会を運営しているメンバーの様々な顔が見られるだけでなく、直接質問をしたりすることができますよ。地域を超えた皆様とお会いできること、楽しみにしています。

□ これからの学会の活動

秋元秀俊（秋編集事務所・東京都文京区）

状況の大きな変化

不幸中の幸いというのでしょうか、私たちは、今、安楽な日常がたやすく壊れるものであることを経験しています。COVID-19パンデミックは、私たちのささやかな日常の営みが、とても貴重なものであることを教えてくれ、立ち止まり振り返る時間をくれました。

この学会の前身である研究会の設立総会は、降りしきる雪のなか、参加予定の阪大教授を乗せた飛行機が羽田上空で着陸を断念して引き返すような天候にもかかわらず、700人を超える参加者が教育会館ホールをほぼ満席にしたのですが、この熱気は、北欧とは比較にならない高い蝕有病率、ドリルフィルの保険診療という状況があり、カリエスリスクアセスメントを糸口にこのような歯科診療のあり方を根本的に変えることができるのではないか、そういう思いを募らせたものでした。以来、



20年、定期管理を重視した診療の普及、歯科衛生士の役割の見直し、その診療補助業務についての誤解の解消、歯科衛生士のトレーニング、認証診療所の拡大、日常診療記録を利用した様々な臨床疫学調査、カリエスリスクマネジメントの普及等々、いくつかの活動は日本の歯科医療に大きな影響を与え、すでにそれは日常のルーティンになっています。

そして、現在、う蝕有病率は北欧にひけをとらないレベルになり、多くの国民が歯科は定期受診するものと理解するようになっていきます。

著しく低い労働生産性

もう少し視野を広げると、若年人口の減少、有病高齢者の増加が歩調を速めています。要介護者が増加し、ほとんど背負えないほどに勤労世代の負担が極大化する超高齢社会が着々と迫っています。少ない就労人口で増加する高齢者を支えるには、労働生産性を上げる以外に方法がないのですが、この国の労働生産性は、OECD主要7カ国中最低で、米国の約6割、一人あたり労働生産性はOECD36カ国中21位、先進国のなかでは際だってイノベーションの乏しい、組織の硬直化した、若者や女性の活躍の場が少なく、IT化が遅れた国なのです。

さて、産業として見ると、歯科診療は生身の人を相手にしたサービス産業で、しかも手仕事の要素が多いため、従来、労働生産性の改善が難しい分野でした。自費診療に専念すれば収益率は飛躍的に高まりますが、これは自由市場と言えば聞こえは良いものの、内実は買い手（患者）と売り手（歯科医療者）の著しい情報ギャップに依拠した、患者が健康を損なえば損なうほど医療者が儲かるという仕組みです。

ヘルスケア診療のキーワード

実は、ヘルスケア診療は、患者が健康を損なえば損なうほど医療者が儲かるという仕組みをひっくり返し、同時に歯科診療の労働生産性を一般医療並みに改善するという点で、これまでの歯科診療を根底から変革するものです。医療の問題に、労働生産性のような理屈を持ち出すと嫌がられますが、これは歴史的な大局観をもってヘルスケア診療を考える上で重要なキーワードです。

さらに、象徴的な出来事として、研究会スタート時にとらわれていたカリエスリスク診断という医学モデルから脱皮して、患者と情報を共有し、患者を主人公にする生活モデルのカリエスマネジメントのかたちを作り上げました。こうして病因論に基づく医療、すなわち治癒可能な初期病変を予防または治療し、維持療法をルーティン化するヘルスケア診療は、患者の利益と医療者の利益が一致するという点で、医療の本来あるべき姿に近づきつつあります。熟練した歯科衛生士が、歯科医師と患者と情報を共有し、診療補助の幅を最大限に拡げることによって、

生身の人を相手にしながら、同時に高い労働生産性を実現する可能性をもっているのです。もちろん、的確な診療情報を患者と共有し、歯科衛生士の能力を高めてチーム医療を実現することなしには、患者の利益と医療者の利益が一致したヘルスケア診療は実現できません。

発言し行動するオピニオンメンバー

このように20年前からの状況の変化を振り返ると、この学会が現在立っている位置が見えてきます。変化の少ない歯科医療分野でも、診療報酬は重症化予防へとシフトし、第三者機関の認証による専門医制度がスタートし、4年制の歯科衛生士学校が始まり、歯科大学の再編が動き始めました。状況は確実に変化しています。

では、どのような新しい一歩を踏み出すか、その一歩を踏み出すのは、もはや設立時のメンバーではありません。世代交替こそが、新しい一歩です。今回のCOVID-19のパンデミックによって、オピニオンメンバー会議が開けない、認証ミーティングも開けない、そこですぐに始めたのがホームページを利用したコロナ対策情報のプラットフォーム化で、次にWebセミナー、オンラインサロンをスタートさせました。これはコロナ禍なしには、考えもしなかった活動です。しかもこの活動を日常的に運営したのは、会員歴の浅いWEB委員でした。

一極集中のトップダウン型の組織は、おそらく時代遅れです。法人化にあたって、評議員をオピニオンメンバーと呼ぶことになりましたが、これは文字どおり、発言し行動するメンバーが集まることを期待したものです。

終身会員制度

話は変わりますが、先に開かれたオピニオンメンバー会議で、終身会員制度の新設が決まりました。65歳以上の会員が100,000円を一括前納することにより、本人逝去または退会希望が無い限り終身会員の資格を得る、というものです。これは、高齢になった会員には、活動の如何にかかわらず会員でありつづけていただくという趣旨です。

これに併せて「永年会員」に対し、その長きにわたる学会活動への貢献を賞して表彰する制度（永年会員表彰）を来期から始めます。「永年会員」とは、70歳以上かつ正会員歴20年以上継続の会員です。該当者は、現在（12月末現在）、23人おられます。ありがとうございます。筆者は、まだ（ギリギリ）その表彰を受ける有資格者ではありませんが、皆さん、よろしくお願いします。

この報告はコアメンバーが分担しましたが、藤木省三さんは、療養中のため分担から外れました。



Healthcare bibliography

報告：大井孝友



雑誌掲載

日本発！ 新たなカリエスリスクアセスメント“CRASP”
その特徴と臨床応用の実際
杉山精一、澤幡佳孝
ザ・クインテッセンス 11月号 p.62-82 クインテッセンス出版

予防の常識・非常識
藤木省三
nico 11月号、12月号 p.60-61 クインテッセンス出版

もったいないオーラルケアしていませんか？
CASE1 歯みがき後のすすぎ、多すぎませんか？
田村 恵
nico 12月号 p.6-7 クインテッセンス出版

読者が本当に聞きたいこと、全部答えます 2020年上半期
“とりっぱなし”じゃ、もったいない！
予防型歯科医院の資料の見かた・使いかた
口腔内写真・デンタル・サブカルテ
藤木省三、堀坂寧介
歯科衛生士 11月号 p.84-85 クインテッセンス出版



誌上ケースプレゼンテーション DHパワーアップ道場⑥
無理のない口腔衛生指導による信頼関係の構築
1年目に担当し試行錯誤で対応した症例
北原結奈
歯科衛生士 12月号 p.81-87 クインテッセンス出版

院内でスマートに身をこなす
コミュニケーションのヒント③ 院長とのかかわり②
部下としての“心構え”
年名 淳
DHstyle 11月号 p.90-93 デンタルダイヤモンド社

院内でスマートに身をこなす
コミュニケーションのヒント④ 院長とのかかわり③
相手の“使いがちな感覚”を知る
年名 淳
DHstyle 12月号 p.94-97 デンタルダイヤモンド社

この道30年 専門家が教える誠のスタッフ教育
「選ぶまたは選びなおす」という話
井上和
デンタルダイヤモンド 12月号 p.174-175
デンタルダイヤモンド社

ヘルスケアミーティング 2020 報告

KFC Hall & Rooms (東京・両国) / Zoom

リアル会場 & Zoom オンライン開催



蓮見 愛
(歯科衛生士・
杉山歯科医院)

『講演 1 : 歯周病新分類の臨床的意義』を聴講して

2020年11月22日にKFC Hall & Rooms およびオンラインでヘルスケアミーティング 2020 が行われました。

講演 1 として歯周病新分類の臨床的意義を関野 愉先生に講演していただきました。

私自身、日常の臨床で分類については慢性歯周炎か侵襲性歯周炎かくらいにしか考えていなかったのですが、新しい分類から侵襲性がなくなったと聞いて理解しにくい状況でしたが、講演を聞いて以前より理解できるようになりました。

新分類の基準は歯面単位ではなく患者単位で診ること、アタッチメントロス、X線の骨吸収で分類できること、ステージは現在の口腔内の状態を評価するものなので改善することはないが、グレードは進行度や生活習慣のリスクも診るので改善も悪化もする、費用面でも追加するような複雑な検査も必要ない。日常の検査で分類できるという面でも、少し身近なものに感じてきました。患者さんにも新しい分類を理解してもらい、情報の共有ができるツールとしても使用できるのかもと考えるまでになりました。

関野先生の「重症度が違っていても治療方法に差はない」という言葉も印象に残っています。確かにセルフケアとプロフェッショナルケアを定着することに変わりはありません。日々の診療の際には患者さんとしっかり向き合い患者さんごと、部位ごとに口腔内の健康を守っていけたらと思いました。

『講演 2 : 新分類のグレードを分けるバイオマーカーを探る』を聴講して

お一人目、関野先生の歯周病新分類の臨床的意義のご講演を踏まえ、久保庭雅恵先生のご講演が、オンラインにて、「オミクステクノロジーを駆使し歯周病の進行速度を反映するバイオマーカーを探る」とのお話から始まりました。

日本ヘルスケア歯科学会に所属する私たちは、Early onset の歯周炎を発症している患者さんの対処に悩む場面は決して少なくないのではないのでしょうか。もとより、こういった患者さんを継続して担当している歯科衛生士の方々も苦慮されていることと思います。歯周病新分類のグレード C で表記されている急速な進行に関わるバイオマーカーを、メタボローム解析により明らかにすることが出来れば、ステージ IV グレード C のケースなど、発症前の早期発見や早期介入に資することになると思われます。

ヘルスケアミーティング 2020 参加後に行った当院に於けるミーティングでは、スタッフより、「久



齋藤 健
(市川市開業)




保庭先生が冒頭で仰ったように、『検唾液』を集団検診の項目に加えられるようになって欲しい」
 「集団検診を受ける人は受動的ではなく、情報を得ようとしていると思われるので、カダベリンなどのポリアミン類が高頻度に放出されていますよ、重症の歯周炎に移行する可能性がありますよ、喫煙の影響は大きいですよ、といった啓蒙の表現がより受け入れやすくなり、歯科医院への来院が増えるというシナリオを期待している」
 「メンテナンス来院者へのモチベーションアップにもつながるだろう」といった発言があったことを申し添えます。コロナ禍で研究実施は延期になっていますが、久保庭先生は、昨年のヘルスケアミーティング終了後にもご講演されており、これに関し、代表の杉山精一さん、コアメンバーの秋元秀俊さんが、ニュースレター vol.22 no.5 にご投稿されていますので、ご参照いただけたらと思います。

☆ チャレンジャー賞表彰 認定歯科衛生士 & 4年目歯科衛生士 ☆ 法人展示

休憩時間には、オンラインスクリーンにてチャレンジャー賞 認定歯科衛生士 5名の方の紹介（本人からのコメントを表示）、4年目の歯科衛生士 41名のお名前を表示しました。

認証ミーティング延期により、認証診療所の表彰はありませんでした。

なお、会場での密を避けるため、法人展示は中止とし、配布を希望した法人会員のパンフレット等を集めて配布しました。

■お詫び 当日 Zoom の URL が急遽変更になりました。ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。 



認証ミーティング

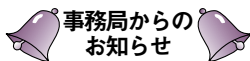
2021年 4月 11日 (第 17回) 千里ライフサイエンスセンター(大阪・豊中市) & Zoom
 7月 11日 (第 18回) 会場未定

2020年7月から延期された認証審査について、2021年4月11日に大阪・千里ライフサイエンスセンターとZoomオンラインのハイブリッドで開催します。また、2021年の認証審査は、エントリー者数次第ですが、7月11日(会場未定)に開催します。

認証ミーティングは、会員診療所の日常の努力を緊張感をもって見ることができるまたとない機会です。ぜひ、診療所スタッフ全員でオンライン参加をご検討ください。

ヘルスケアミーティングも同様ですが、オンセット参加とZoomオンラインのハイブリッド開催の場合は、YouTubeでも同時配信しますので、スタッフが各々自宅から視聴することも可能です。

7月11日の認証ミーティングはエントリー受付中です。ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。



各種申請書のダウンロードができるようになりました

会員用サイトより各種申請書がダウンロードできるようになりました。ご利用ください。

- ・ 終身会員申込書
- ・ 休会申請書
- ・ 年会費免除 (産休・育休)
- ・ 認定歯科衛生士更新期間延長 (産休・育休)
- ・ 認定歯科衛生士資格回復手続き 等



ウェビナー報告

ヘルスケアオンラインサロン 13回～18回
Webセミナー 10回～15回

ヘルスケアオンラインサロン

第13回 2020年10月20日(火)20:00～ 運営：田幡

ヘルスケアの壁についてなんでも話そう

(ホスト：高木景子)

第13回目は高木景子さんがホストを務め、「ヘルスケアの壁についてなんでも話そう」というテーマで行われました。

ヘルスケア歯科診療を実践していく過程を山登りに喩えると、超えなくていけない多くの壁を一步一步進んで頂点を目指していかなくてはなりません。いろいろ悩んで迂回しながら壁を越えていく場合や、先輩や仲間のアドバイスによりイッキに進める場合もあるでしょう。自分もそのような壁（悩み）をシェアしたいと思い参加しました。

まず、参加者からの悩みを抽出するために三つのグループに分かれディスカッションをしました。その後それぞれの班で発表し、いくつか挙がった悩みをホストが以下の三つに選定しました。

- ① 新人や経験の少ないスタッフにどのようにヘルスケア歯科診療を伝えているのか
- ② スタッフのモチベーションの維持、教育について
- ③ メインテナンスで来院した患者のチェックのタイミング（担当歯科衛生士から呼ばれた時の対応）

という議題で、また各々のグループに分かれディスカッションをして報告しました。驚いたことに、三つの議題に共通するのはスタッフの悩みです。我々会員の壁（悩み）は、チーム医療として必須なスタッフの様々な問題なのだと感慨深い思いで参加者の意見を聞き、大変参考になりました。

その後フリートークの時間になり、親子継承についての悩み、診療に対するスタッフ間の温度差についての悩みなど様々な相談があって、参加者からアドバイスをいただきました。

最後にホストから、ヘルスケア歯科診療をやっていると思うとつまずくことも多いし、それは自分だけの問題ではなく皆も同じような悩みを持っていることもある、今日のサロンが明日からの診療をがんばろうと思っていただければ、というまとめの言葉がありました。まるで懇親会のような和やかな雰囲気です。終会となりました。

第14回 2020年10月27日(火)20:00～ 運営：曾野 情報と資料整理どうしていますか？(ホスト：杉山精一)

第14回目は杉山精一さんがホストを務め、「情報と資料整理どうしていますか？」というテーマで行われました。杉山さんは、以前は紙ベースで残しておきたい記事や論文を整理していましたが、次々に増えていく資料と必要な書類の検索に手を拱いていました。そこでEvernoteというアプリケーションを導入し、デジタル化による資料の整理をおこなった結果、大変有益だったのでオンラインサロンでシェアしたいとの思いでこの日の企画になりました。

まず、和やかな雰囲気のもと参加者の自己紹介から始まり、ホストがスライド共有をおこないEvernoteの使い方・整理の方法など具体的に説明されました。様々な講演や原稿を執筆するにあたり、参考文献の引用が必要なのですが、その文献の検索・整理の方法の簡便さや、共有の仕方について、また英語文献の調べ方や翻訳ツールについても紹介されました。

その後、参加者から様々な意見交換がありました。イエテボリ大学留学中の石塚洋一先生からは、デジタル化に関しては既に実践しており、また大学在籍されている関係で文献検索についてもアドバイスをいただきました。石塚先生は、雑誌など紙ベースものを裁断し、スキャンスナップでデジタル化し、タブレットで確認するというルーティンにしていると報告しました。また藤原夏樹さん（広島市）からは、タブレット（iPad）を各歯科衛生士に渡しEvernoteで院内の情報をシェアしているとのことでした。

第12回サロン（ホスト：中本知之）でも話題となりましたが、カルテ、サブカルテ、様々な書類や資料、院内で共有したい情報など、今後益々デジタル化が進むと思います。今回のサロンでは、自分が持っている資料を上手に整理できるアイデアをいただきました。

第15回 2020年11月10日(火)20:00～ 運営：山本 マイクロの部屋へようこそ！（ホスト：斉藤仁）

第15回目は斉藤仁さんがホストを務め、「マイクロの部屋へようこそ！」というテーマで行われました。

自分は5年前にマイクロスコープを導入しましたが、実際の診療では根管治療をメインに活用しており、ヘルスケアの方々は他にどのような使い方をしているのかが興味があって参加しました。

最初にホストから、今回のテーマの経緯のお話がありました。以前、助成金についてWebセミナーを開催したところ、参加者から助成金を利用してマイクロスコープを導入したいがまだ躊躇しているという意見があり、マイクロスコープについ

てオンラインサロンで忌憚のない情報交換をしてみたいとのことでした。

その後、参加者のなかで今現在マイクロスコープを「導入していない派」と「すでに導入して活用している派」にバランスよくグループ分けして、ブレイクアウトルームでディスカッションをおこなった後、全員で報告するという形式で進行了しました。

それぞれのグループでは、少人数ということもありいろいろな意見交換ができたようです。その後全員で集まって報告をしました。どの機種がお勧めなのか？ 価格は？ 導入されたタイミングは？ 等から始まり、臨床でマイクロスコープを使う症例について、自費か保険内なのか等と様々な意見がありました。その中なかでも最も印象的だったのは、今回参加された杉山幸菜さんによる歯科衛生士のマイクロスコープの活用法でした。動画でボロっと落ちる歯石を撮影し、患者に情報提供するインパクトは絶大で、ぜひ歯科衛生士もマイクロスコープを活用して欲しい、また担当している患者の気になるところをマイクロスコープで撮影して歯科医師に確認してもらおう、というお話がありました。

他にも1歯だけを視る歯科医師とは違い、多数歯を扱う歯科衛生士にはアームの取り回しの良い機種がお勧めという意見もありました。実にヘルスケア歯科診療らしいマイクロスコープの使い方だと共感し、当院でも参考にしたいと思いました。

第16回 2020年11月17日(火)20:00～ 運営：寺岡 医療における情報の非対称性：コミュニケーションの面白さ、難しさ(ホスト：秋元秀俊)

第16回目は秋元秀俊さんがホストを務め、「医療における情報の非対称性：コミュニケーションの面白さ、難しさ」というテーマで行われました。

普段聞いた事がない「医療における情報の非対称性…」という秋元さんらしい少々難解な切り口ですが、何度か他のサロンで開催されたコミュニケーションについての話題に興味を持ちサロンに参加しました。

最初にホストからスライドにより、今回のテーマについての解説がありました。

例えば、果物でも中古車でも売り手と買い手の状況に応じて情報量、決定権、評価などの主役は変化するもので、それは非対称（どちらも対等ではない）である（J.スティグリッツの非対称情報の経済学）に準えて、医療者側と患者側においてもその情報量、決定権、評価などの主役は医療の緊急性や状況により変化するのではないかと、つまり初診で歯の痛みがあって来院した患者とメンテナンスで来院した患者では情報量、決定権等が大きく変わるのであって、それに依りて説明やコミュニケーションも違うのです、という内容でした。

また、畑違いだったホストが歯科医療に興味を持ったのは、他の医療とは違い慢性疾患であるう蝕と歯周病をどのように退治していくのかという現状で、歯科医療は医療者側が主役になりづらい（患者側が主役になる）側面を持たざるを得ないという特殊な医療だからというお話がありました。

ヘルスケア診療の重要性の一つに「情報共有」があります。杉山代表が考案したCRASP（Caries Risk Assessment Share with Patients）のShare with Patientsがヘルスケア診療の原理であり、このサロンを企画した目的だとホストから説明がありました。すなわち患者との情報共有が大切であり、患者の自己決定権が尊重されるメンテナンスを基盤としたヘルスケア診療において、患者主役が必然にあるということです。

日々の臨床ではあまり意識していませんでしたが、よく考えると大変興味深い話題提供で、当院でもスタッフと話合いたいと思いました。

最後に、円滑なサロン進行に努めていただいた寺岡さんに感謝申し上げます。（報告13-16回：林浩司）

第17回 2020年11月24日(火)20:00～ 運営：古市 デンタルXもっと活用したい(ホスト：田中正大)

当院（クリスタル歯科・安田直美）は開業18年経ち、開業と同時にデンタルX（当時はデンタルVII）を購入し、私は日本ヘルスケア歯科学会（当時は日本ヘルスケア歯科研究会）のような患者データの導入を確実にやり、リスク統計をしっかりとする歯科医院を目指して開業しました。しかし実際の患者データの導入は、初診時の受付入力、歯科衛生士による口腔内写真や歯周組織検査しか行っていませんでした。このタイトルをみた瞬間、ここで知らない入力の仕方を覚えて、活用したい、と意欲を持って、参加させていただきました。

田中正大さんは、デンタルXの良さと欠点、ウイステリアの良さと欠点をお話しいただき、CRASPが近くバージョンアップにて入力可能となるウイステリア移行も並行して行っており、当日入力を診療後、毎日行っている話を聞き、“毎日の積み重ねが大事である”と改めて思える時間で、感動と感謝の時間でした。

当院のように、デンタルXを歯科衛生士だけしか活用していない歯科医院が数多くあることを話していただき、そしてこれ(①, ②, ③, ④)を知ったら、とても便利になるし、リスク統計も出しやすくなることを、教えてくださいました。

- ① 歯周検査などの比較（前々回、前回、現在）ができる
- ② リスク統計（認証取るときには必ず必要）
- ③ 症例 自分の症例を入れ、患者さんに提示、説明できるので、面白い。

④分類の利用

分類1～8 各医院で入れたい項目を入力。一旦入れると変更するのは難しいので、入力するときはよく考えて入れること。1時間15分で田中歯科さんでの活用方法を盛り沢山お話しいただきました。追加として次のアドバイスがありました。

- ・デンタルXを診療室以外で見ることができるオンラインでつなぐ機能，“チームビューア”が便利。
- ・プラネット社がデンタルXからXRに移行するにあたって、リスク統計が使えなくなる可能性が高いので、デンタルXをそのままMacで使うには、MacOS10.14までのMacを購入しておくことを勧める。



④ 分類の利用

(報告：安田直美)

第18回 2020年12月1日(火)20:30～ 運営：杉山(修)

ヘルスケア的保険のはなし その2 レセプト返戻、個別指導、気になりますか？(ホスト：岡本昌樹)

7月から続くオンラインサロンももう18回目です。毎回10～20名前後の参加者で、全国に顔見知りが増えてきている。今日は、「ヘルスケア的保険のはなし、レセプト返戻、個別指導、気になりますか？」まさに、禁断の(?)テーマです。今回は、栃木県歯科医師会社会保険担当トップで、個別指導等に精通している岡本さんにお話しを伺った。(コーディネーターは杉山(修)さんでした)

開業医にとって、恐ろしい個別指導は

- ①高点数
- ②情報提供

がメインで、都市部においては、①は行われていないとのこと。②については、患者さん、スタッフ、そして意外だったのは、家族(奥様)からもある、という考えさせられる解説でした。(普段からのスタッフ等への対応が重要！)

その内容は、

指導の通知は一ヵ月前にくる。
計30枚のレセプトを用意する。

- ・一ヵ月前に20件
- ・前日に10件
- ・二ヵ月連続で来院しているレセプトが対象

等、かなり絞られるという、貴重な意見をうかがった。

また、指導当日は、様々な書類が必要なので、事前にしっかりと取り組むことが重要。(特に前日の10枚は大変！)

具体的には、カルテに所見、転帰をしっかりと記入する。

また、材料、診療方針も、もれなく記入し、診療術者の手順通りに記載する。

岡本さんからは、診療の良し悪しは、医師の裁量だが、カルテは公的書類。請求も公的請求、所見、提供文書、技工指示書の記載などは、決められた必要事項を守っていないと、不正請求となる！と、当たり前のことだが、厳しいアドバイスを頂戴した。

今回は、ある先生の50年前の新时期指導時のエピソードが、興味深かった。

再指導を2回受け、技官が医院にチェックしに来た、等当時の苦勞がしのばれた。

ヘルスケア的診療を進めていくと、か強診の医院はSPT(II)、Ceの算定で、高得点になりがちだが、気にせず実態通り算定して下さい、との力強い言葉を頂戴し、あつという間の一時間だった。

このサロンの良い所は、気軽に参加できる所で、毎週火曜夜一時間、しかも無料で開催される。

ある回では、「イクラのしょうゆ漬け」を作りながら参加した人もいた(おいしそうでした)。

講習会の打ち上げコンパのノリで、本音でディスカッションができ、楽しく学べるので、是非皆様ご参加ください！

(報告：雨宮博志)

ヘルスケア Web セミナー

2020年10月11日(日)に予定されていた第9回「ヘルスケア型診療における感染管理対策セミナー 講師：渡辺 勝」は、12月20日(日)9:00-12:00に延期となりました。

第10回 2020年10月14日(水)20:00～ 運営：杉山(修)

ヘルスケア歯科診療への転換 七転び八起き 失敗に学ぼう
講師：田中正大

第10回目のWebセミナーは、田中正大さんによる「ヘルスケア歯科診療への転換 七転び八起き 失敗に学ぼう」というテーマでおこなわれました。

田中さんの「七転び八起き・・・」は以前ニュースレターの連載や数々のセミナーで聴講したことがありましたが、田中歯科のチームマネジメントを再度お聞きしたいと思い参加しました。

ヘルスケア歯科診療を実践している医院では十人十色、様々な経緯を得てシステムが構築されると思います。それまでの診療をヘルスケア歯科診療へ転換していくには、病因論に基づいた歯科医療の実施、患者を定期的に健康管理していくノウハウ、規格性のある資料採得をおこない、そのデータを蓄積し常に検証・改善できるシステムの構築など多くの難関があります。そして、そのヘルスケア歯科診療に欠かすことができないものがスタッフとの「チーム医療」ではないでしょうか。

今回の講演では、田中さんが1994年に開業して26年経った経験についてお話しされました。開業してから、ヘルスケア歯科診療に出会い、東京ヘルスケアグループの仲間と一緒に実践し、認証診療所に合格してその後も様々な改革をしながら現在に至ります。今日では長期にわたりコアメンバーとして活躍されていますが、その変遷はうまくいったことばかりではなく、上手くいかなかったことも赤裸々にお話しされました。特にスタッフ雇用関係に関する問題は多かれ少なかれ、どこの医院でもあるのではないのでしょうか。当院でも、紆余曲折があって現在に至りますが大変共感と学びのある講演でした。

最後に、ヘルスケア歯科診療を学び実践するためのお勧めの書籍を多数紹介していただき、盛会の内に終了となりました。



第11回 2020年10月21日(水)20:00～ 運営：古市 臨床家のためのフッ化物応用 講師：石塚洋一(外部講師)

第11回目のWebセミナーは、石塚洋一先生による「臨床家のためのフッ化物応用」というテーマでおこなわれました。石塚先生は、第8回目のオンラインサロンにゲストとしてお呼びした経緯があります。現在、東京歯科大学歯学講座講師であり、スウェーデンイエテボリ大学歯学部カリオロジー科に留学中で、日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員でもあります。今回はカリエスマネジメントに必須なフッ化物応用について、また日本とスウェーデンのフッ化物の考え方の違いについてもレクチャーをしていただきました。

今日、日本でも高濃度フッ化物配合歯磨剤(1450ppm)が販売されるようになって久しいですが、他にも様々な濃度の歯磨

剤、ジェル、フォーム等があり、フッ素洗口法や塗布法などのフッ化物応用法の利点や欠点を整理して、知識をブラッシュアップしたいと思い受講しました。

まず、講師からフッ化物応用を勉強するためにお勧めする書籍の紹介があり(特に「フッ化物応用の科学 第2版」一般社団法人日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会編がお勧め)、それらの書籍からフッ化物に関するエビデンスを解説していただきました。う蝕の予防効果に関しては、ブラッシング指導や飲食のコントロールよりフッ化物利用の方が高いことや、歯磨剤や洗口液に配合してあるフッ化物の種類や濃度について詳しいお話がありました。

次にフッ化物の種類について、日本で実際に販売されているフッ化物配合歯磨剤、洗口剤、塗布法薬剤の一覧表をご提示いただき、各々の適用法・違い等を解説されました。この表があれば、患者さんに説明するのに大変分かりやすいと思いました。特にフッ化物配合歯磨剤については、歯ブラシにつける量、ブラッシング時間、うがいする回数などについて講師ご自身の研究から示唆に富む内容でご教授いただき大変参考になりました。

その後、イエテボリ法、ダブルブラッシング法について解説をいただき、日本とスウェーデンのフッ化物の適用法の違い(フッ素濃度も含め)についてお話しされました。

講演後、質疑応答では事前のアンケートも含め多数の質問があり、一つひとつ丁寧にお答えいただきました。今回は、フッ化物応用について臨床的に分かりやすくご教授いただき、明日からの診療に役立つ内容で大変勉強になりました。



第12回 2020年10月25日(日)9:00～ 運営：曾野 医院でCRASPを実践しよう

パネラー：杉山精一、落合真理子、大本幸加、中本知之

第12回目のWebセミナーは、初の試みとなる日曜日の午前中3時間半にわたり、4人の講師(杉山精一さん、落合真理子さん、大本幸加さん、中本知之さん(発表順))が交代で講演をするという臨場感溢れるセミナーになりました。

CRASPについては、すでに杉山さんの5回に及ぶカリエスマネジメントのテーマのなかで講演をされましたが、院長がCRASPを実施したくても実際の臨床で応用するにはスタッフの理解が必須です。そこで今回の企画としては、医院全体でCRASPに取り組むためのスタッフ参加型のWebセミナーとなりました。

当院ではすでにCRASPを導入していますが、他の医院の取り組み、特に歯科衛生士演者のカリエスマネジメントの実施方法に興味がありセミナーに参加しました。

まず、司会進行役の曾野偉錬さんから本日のプログラムの紹介があり、杉山さんの講演から始まりました。ヘルスケア歯科診療に欠かせないカリエスマネジメントについて解説されCRASPを開発した経緯のお話がありました。カリエスリスクアセスメントにはサリバテスト（カリオグラム）やCMBRAなどありますが、世界的にスタンダードなものではなく保険診療がベースの日本に適したものを開発したいという思いでCRASPが誕生した（様々な海外学会発表や当学会内ですり合わせを行い試行錯誤のうえで）というお話を聞き、大変感銘を受けました。

次に、落合さんからCRASPの体験ワークがありました。聞き取り役の落合さんと患者役の中本さん、大本さんのやり取りを聞きながら参加者がCRASP記録用紙に記入していく形式で進みました。大変見事な擬似体験ワークで、参加者が記入した後、それぞれどこに注意点があるのか落合さんから解説がありました。

その後、大本さんからCRASPを導入してから医院がどう変わったのかというお話がありました。カリエスリスクは常に変化するもので、来院毎にリスクを患者さんと共有することが大事であり、単なる聞き取りではなく何がリスクなのか解説が必要だとお話しされました。

次に、中本さんからはタブレット（iPadなど）を使用したCRASPの実例を紹介していただきました。まず、タブレット版の具体的な導入方法について解説され、その利点や実際の使用方法についてお話しされました。CRASPのチェック項目を時系列的に確認できることで医院サイドだけではなく患者との共有が図れるメリットがあると説明されました。

その後、参加した各医院でどのような取り組みをするのか相談する時間があり、質疑応答の時間になりました。各医院から活発な質問があり時間オーバーの盛会の中、終了となりました。

最後に杉山さんから、患者との生涯にわたったう蝕と歯周病のコントロールをするというヘルスケアの理念がようやく整ってきた感じがあり、会員内だけではなく広く歯科会に向けて普及していくことを望みますというメッセージをいただきました。

今回は、今までのWebセミナーと異なり様々なご準備があったと思います。末筆になりますが、司会進行役・ご講演いただいた方々にお礼と共に今後益々のご活躍をお祈り申し上げ、報告と致します。

第13回 2020年10月28日(水)20:00～ 運営：古市

「ニコチンのせいだけじゃないの??」依存症について学び、禁煙支援に応用しよう！ 講師：斉藤仁



第13回目のWebセミナーは、斉藤仁さんによる「ニコチンのせいだけじゃないの?? 依存症について学び、禁煙支援に応用しよう！」というテーマで行われました。

当学会では、2018～2019年に禁煙支援歯科衛生士育成ミーティングを開催しました。実際に禁煙した患者さんがその経験を語る動画を素材に、受講者でディスカッションするという形式でおこなわれ大変好評でしたが、一方では禁煙支援は難しいという意見もありました。例えば「そもそも禁煙について話をしても聞いてもらえない」「あまりしつこくアドバイスするとメンテナンスに来てもらえなくなるのでは…」「やめてもらえないと自分の説明が悪いのではと落ち込む」といった悩みを聞きました。その主催者側であった斉藤さんは、禁煙支援について様々な書籍で勉強し自分が思ったことを話すので、そのなかで参加者の日々の臨床のヒントにしてほしいという趣旨説明で始まりました。

まず、禁煙の難しさは「依存症」という側面があり、患者の意思の弱さや道徳心の欠如だけでは解決できない脳の回路が関係している「病気」だと解説されました。禁煙外来では平均で半年から1年後には3割しか禁煙を継続していない（中央社会保険医療協議会2010）という現状の難しさを述べられ、「依存」について知らないで、目先の言い回しやテクニックでは解決できないということを説明されました。

「依存症」については、自己治療仮説（エドワード・J・カンツィアン、マーク・J・アルバニーズ）を紹介し、心理的苦痛を緩和する際に様々なモノ（タバコ、アルコール、ギャンブル、インターネットなど）を選択し解決するかは個人差があり、心理的な痛みが依存症行動の中心の問題とお話しされました。つまり「依存症」とは、意志の弱さや道徳心の欠如が原因ではなく、脳の回路が関係しており社会的・心理的・精神医学的な要因が複雑に影響しあって引き起こされるという視点が大切なので、禁煙支援は単なるテクニックで解決できる問題ではなく、大きな気持ちで患者に寄り添うことが大事、というお話をされ

ました。

禁煙支援に悩むスタッフには大変参考になったセミナーだと思えます。また「大きな気持ちで患者に寄り添う…」というヘルスケアに最適なアドバイスをいただきました。

(報告 10-13 回：林 浩司)

第14回 2020年11月25日(水)20:00～ 運営：曾野

「チョコやハイチュウは食べますか？」って聞き方してませんか?? 炭水化物・糖について学び、食生活指導に応用しよう!

講師：斉藤 仁

今回のオンラインセミナーでは、炭水化物や糖について、食品表示や栄養成分表示の見方についてなどを学びました。炭水化物や糖については、専門学生時代に授業で学んだり、就職してから何度か勉強する機会はありませんでしたが、段々と忘れてしまい知識が曖昧になっていた部分もあったので、改めて確認することができて良かったです。

日々の診療の中で、食生活の問診をお母さん達にした時に、果物やチーズを子どものおやつ時間に与えていると聞くことがよくあります。それを聞き、果物だったら大丈夫そう!と思いましたが、今回のセミナーで果物の中にもショ糖が含まれているということを知り、驚きました。知識不足だったので、何事もちゃんと調べなければならぬと思いましたし、今後の食生活指導を見直すきっかけになりました。単純に「甘いものだから良くない」「甘くないから大丈夫」のではなく、しっかりと何が入っているのかを確認し、食品の裏に記載されている食品表示や栄養成分表示を見るようにすることが大事だと学びました。

また、内容もそうですが、どのように食べているかもポイントになってくるので、細かく問診をすることが食生活指導をするにあたって大事なことなのだと改めて思いました。患者さんのカリエスリスクを把握し、コントロールするためには食生活指導は欠かせないことだと思うので、今回のセミナーで学んだことを日々の臨床に活かしていきたいと思えます。

いまは、コロナ禍でのセミナー参加が難しいことと、モチベーションが上がらず自発的に勉強などが出来ていなかったなか、今回のようなオンラインセミナーは参加も気軽に出来てとても良かったです。一時間弱のセミナーでしたが、とてもあっという間でした!毎週やっているみたいなので、是非また他のオンラインセミナーにも参加したいと思えます。

(報告：千葉真奈美 歯科衛生士・さいとう歯科室)

第15回 2020年12月9日(水)20:30～ 運営：田幡

カリエスマネジメントセミナー第6回 臨床例から学ぶ part2 隣接面 講師：杉山精一



杉山精一代表のカリオロジーセミナーも早いもので第6回となりました。毎回受講するたびに新しい発見も多く、日々の臨床のアップデートをさせていただいております。

さて、今回のカリエスマネジメントセミナーでは、隣接面のう蝕に対するマネジメントの方法論に関して、症例解説も交えつつ、講義が展開されました。

隣接面う蝕の問題点として、まず診査診断に関して視診での診査の限界 (hidden caries の存在) を解説され、対応策としてエックス線写真撮影での診査やダイアグノカム (Kavo 社) の使用といった、各種診断機器・装置の活用方法をご教示いただきました。前回の Part1 : 咬合面う蝕でも取り上げられたダイアグノカムの有用性を改めて学ぶとともに、将来の開業時にはダイアグノカムをぜひ取り入れたいと感じるばかりでありました (また具体的な使用方法や運用方法などは、コロナが落ち着いた際には、個人的に医院見学をぜひお願いしたいと感じております)。

臨床例では、切削充填処置を行う前の前段階の方法として、Icon の症例を多数供覧させていただきました。雑誌「ザ・クインテッセンス 2020年4月号 (クインテッセンス出版)」を読ませていただいて興味を持っていた Icon 治療ですが、実際の臨床例を学びながら、どのようなケースにどのような手技で治療を行うのか、その理論と実際を理解することができました。

日々の臨床において、診査診断が不十分で隣接面のう蝕を見落としてしまったり、適切な時期に適切な介入ができず、後々後悔してしまうことが残念ながら時に起こってしまいます。今回はエビデンスや杉山代表の貴重な臨床記録を通して、いち若手歯科医師の自身の経験では現時点で得られない学びを多く得ることができました。日々の臨床にこれらをアウトプットできるように、自院のスタッフと情報をシェアして、どう行動するか、考えていきたいと思えます。

(報告：寺岡徳光 勤務医・こぐま小児歯科/坂田歯科医院)

【第5期】第3回 オピニオンメンバー会議 報告

終身会員制度など2議案を可決

一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会の社員総会（第5期第3回オピニオンメンバー会議）が、11月22日（日）午前10時00分から両国KFCホールの会場とオンライン参加のハイブリッド形式で開催されました。

この日の両国KFCホールには関東地方のオピニオンメンバー16名が参加、開始時点のオンライン接続アカウント数は40（接続数から関係者を差し引いた数）、委任状18でした。司会の田中専務理事が、議長に齋藤健さんを推薦し、参加者の同意を得たのち、議長席に移動した齋藤さんは、定数を認めて会議の成立を確認し、開会を宣言したうえで、議事録署名人に安田直美さんと杉山麻里恵さんを指名し、議案審議に入りました。

まず会議は、各種委員会活動を担当コアメンバーが報告するかたちで、会誌編集委員会は北九州からオンライン参加の千草隆治さんが、認定分科会要件を満たすため、宮本学さんを編集委員長に6名の編集委員が、ややオーバーワークながら総説2編、原著4編、調査報告1編の会誌の編集作業が佳境にあることを報告し、協力者を求めました。

企画育成委員会は愛媛県からオンライン参加の高橋啓さんが、コロナ禍の影響でWebセミナーとオンラインサロンを始めた経緯を説明し、今後の予定にも触れました。

ニュースレター委員会は、オンセットの林浩司さんが委員会としての活動が停滞していること、現状は主にWebセミナーとオンラインサロンの報告を林さん自身が行っている現状を報告し、委員会の活動再開を約束しました。

ウイステリア委員会は、神戸からオンライン参加の丸山和久さんが、ウイステリア・バージョン6のリリースの遅れについて事情を説明、今後のスケジュールとともにウイステリアの普及と永続性を検討する別組織の立ち上げについて報告しました。

歯科衛生士育成コースについては、コロナ禍で14期途中で中断している現状についてようやく3月20-21日に神戸常盤大学の

教室を借りて再開する目処が立ったこと、来年度以降感染に配慮した新しい形式で開催することについて田中正大さんが報告しました。

オピニオンメンバーの選挙について、選挙管理委員として同じ田中さんから、スケジュールが伝えられました。

議長は、質疑を求めた後、協議事項に移り、まず第1号議案定款7条改定「終身会員制度」の新設について、執行部の提案理由を求めました。田中さんが、以下の議案書の提案理由を読み上げました。

終身会員制度を設け、65歳以上の会員が100,000円を一括前納することにより、本人逝去または退会希望が無い限り終身会員の資格を得るものとします。そのため、定款の以下の条文を修正します。

第40条 1) 正会員の項に以下を追加

終身会員 100,000円（一括前納）

終身会員は、65歳以上の会員に限り、100,000円を一括前納することにより本条の規定にかかわらず、終身正会員の資格を有するものとする。

なお、終身会員は、第7条に謳う正会員であり、第15条に謳う退会・退社の規程に従う。

なお、これに併せて「永年会員」に対し、その長きにわたる学会活動への貢献を賞して表彰する制度（永年会員表彰）を来期より始めます。「永年会員」とは、70歳以上かつ正会員歴20年以上継続であることとします。

議長は質問を求めた後、採決により、賛成多数で、本議案は可決されました。

続いて第2号議案 オピニオンメンバーの活動について、同じく田中さんが、次期オピニオンメンバーへの留任の要請にあたって以下の提案文を読み上げました。

本学会の活動は多分に洩れず、コロナ禍で多大な制約を受け



ていますが、同時にインターネットを利用した情報発信とセミナー事業に積極的に取り組み、オンライン化を一気に進めています。この変化は、急速立ち上がったWEB委員会の活動が象徴するように、学会組織の世代交替によって担われています。本会は、前身の研究会を立ち上げた世代が、会員の1/4を占め、執行メンバーは法人化した当時からほとんど変化していません。しかし、歯科疾患の有病率は劇的に変化し、歯科医療に求められるものも変わりつつあります。こうした現状を顧みると、コアメンバーが企画・提案・行動する現在の学会の姿では、世代を超えた持続性に大きな不安があります。

さて、オピニオンメンバーは、定款上は公益法人の評議員の役割をもちますが、法人設立にあたって、学会活動の主たる担い手であり、各々が独自の意見をもつことを期待して「オピニオン」という名称を冠しました。その趣旨を今一度振り返り、オピニオンメンバー改選のこの機会に、次期2年をかけて学会活動の担い手としてオピニオンメンバーの役割を明確にしていきたいと考えます。

本学会は、ヘルスケア診療を診療所単位で実現するための学会であると同時に、一人の歯科医師や一つの歯科診療所では実現できない医療・教育・資格・社会保険などの制度の改革や、研究、学問、国際協力などにより専門家の共通理解をつくることを目的にしています。次期オピニオンメンバーへの留任を、知恵と力を合わせる意思表示としてお示しく頂くことを求めました。

なお、コアメンバー会議では、目下のところ

① 役割の明確な委員会

既存の組織；会誌編集委員会、企画育成委員会、ウイステ

リア普及委員会など

② プロジェクトチーム

メンバーの創意で具体的課題をスケジュールにのせて行動するチーム、会員外の参加も可、案；次世代の学会のあり方を提言するプロジェクトチーム、禁煙支援プロジェクトチーム、CRASP普及プロジェクトチームなど

③ フォーラム

比較的経験を積んだ者が共通のテーマで意見を交換する集い 案；保険診療フォーラム、学校医フォーラム、地域活動フォーラム、インプラントとヘルスケアなど、以上のようなフレームを考えています。

議長は、本義案に対する多数の賛同を確認しました。

この提案に補足し、丸山和久さんからオンライン会議を活用して積極的に参加して欲しいと呼びかけがありました。また会場オンセット参加した河野正清さんから、オピニオンメンバー以外の会員の委員会活動への参加を呼びかけることが提案されました。また大井孝友さんは、皆さんセミナーに飢えている、セミナーのテーマを少し拡げ会員外からも参加者を募ることを検討してはどうかと意見がありました。再び河野さんから、歯科衛生士基礎コースの中断・延期に伴う対応（実技動画）について実例を示して提案がありました。

また、札幌からオンライン参加の斉藤仁さんからは、延期になった認証ミーティングが4月11日に予定されていること、杉山代表からはヘルスケアミーティングについても1日のハイブリッド形式での実施になる旨説明がありました。

定刻にてオピニオンメンバー会議の議案審議を完了したことを齋藤議長が確認し、この日の会議を終了しました。



オピニオンメンバー会議（第6期第1回）

2021年2月28日（日）

MEETING SPACE AP浜松町（東京・浜松町）とZoomオンライン

東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館 B1F (<https://www.tc-forum.co.jp/ap-hamamatsucho>)

このニュースレターに第6期オピニオンメンバー候補の一覧（信任投票用紙）が同封されています。この郵送式信任投票は、（信任および無投票についてではなく）不信任投票のみをカウントする方式ですが、これにより信任された候補が第6期のオピニオンメンバーとなります。その初回の会議では、第5期の決算・監査報告および第6期の活動方針を議論しますが、今回は先の第5期第3回の会議で決議されたオピニオンメンバーの委員会等での積極的活動に向けて議論します。

関東地方のメンバーは、浜松町の会場にお越しいただけるように準備します。オンラインでも、より快適に会議を進めることができるように会場を選定しました。

リアル会場とZoomの
ハイブリッド開催！



会場地図

ほっとひと安心 新しい Big Sur (MacOS11.0.1) でウイステリア 6.0 の動作確認

森 一弘 (アクセス代表)



2020年11月に、Apple社から新しいOSのBig Sur (OS11.0.1) がリリースされました。それとほぼ同時に、これまでCPUはIntel社製を使っていたものを、Apple自社開発のM1チップ搭載のMacもリリースされました。2020年12月現在、このM1チップ搭載MacOS Big SurのMacが最新になります。

MacでもWindowsでもそうなのですが、これまで幾度もバージョンアップを繰り返しています。おそらくこれからもずっとバージョンアップが繰り返されていきます。それとともないウイステリアも、最新の環境で使い続けられるようにバージョンアップが必要になり、現在も次期バージョンの「ウイステリア 6.0」の開発が、藤木省三先生を中心に進行中です。

ウイステリアの場合は、FileMaker Proというアプリケーションソフトで動かし、このFileMakerの最新版（現在

バージョン19）と、それを動かすマシンの最新版との互換性があるかどうかの確認が必要です。

新しく出たMacが、これまでと違う自社開発のM1チップを搭載するという点でこの互換性について、これまでよりハードルが高くなる可能性があり、場合によってはウイステリアの開発に支障が出る可能性もありましたが、結論から言うと特に問題なく動作しています。

今回、二つのパターンで検証を行いました。

まず、藤木先生の方でM1チップのMac本体を手に入れていただいて、FileMaker 19で、現在開発中のウイステリア 6.0の動作テストをしていただいたところ、問題なく動作しています。

また、もう一つのパターンでは、私（森）が手持ちのIntelチップの少し古いMacをBig Surにバージョンアップして、同じくFileMaker 19にてウイステリア 6.0

の動作テストをしたところ、こちらも問題なく動作しています。

細かい部分では、まだプログラムの修正が必要と残っているものはあるものの、ほぼ動作確認がとれたと言えるレベルだと思います。

ちなみに現行のウイステリア 5.0も同じ構成でテストして、同じく問題なく動作していますので、新しくウイステリア用にMacを買うご予約の方は、ひとまず安心していただいてもよいと思います。

この最新OS Big Sur搭載Macには、従来のIntelチップ搭載マシンも、まだ並行して販売されているようですが、特にこだわりがない場合は、性能面ではM1チップの方がかなり優れているようなので、M1チップ搭載Macがおすすめでしょう。ただし、ソフトによってはまだM1チップで動かないものもあるようですので、ウイステリア以外でも活用する場合はご注意ください。



☆アクセス

〒842-0033

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町豆田 2103-13

TEL.0952-51-1776 ・ FAX.0952-51-1767

携帯 090-1920-7894

URL <https://www.access-dental.jp/>

URL <http://www.access-pcdoc.jp>

E-mail kazu@access-pcdoc.com

第6期オピニオンメンバーの信任投票について

一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会 選挙管理委員会

第5期の代議員（通称オピニオンメンバー）が、令和2年12月末日をもって任期満了となることに伴い、定款8条の代議員選挙規定に基づき、次期代議員を選出します。前号のニュースレター（Vol.23 no.4）で次期代議員立候補者（自薦・他薦）の募集を告知し、立候補を受け付けました。また現在の第5期のオピニオンメンバーに対しては、留任の意思を尋ね、これを合わせて第6期オピニオンメンバー候補者名簿としました。今回のニュースレター（Vol.23 no.5）に同封の透明の袋に、①第6期オピニオンメンバー信任投票用紙、②内封筒、③返信用封筒をセットし、令和2年度会員に限りお送りしています。ご確認ください。

オピニオンメンバー候補者について、信任できない場合は、候補者名に「×」印をつけて、差出人名のない内封筒に封入し、料金受取人払い返信用封筒に入れて投函してください。この信任投票は、不信任の意思表示がない場合は、規定（代議員選挙規定の3項）により信任とみなされます。不信任の投票が正会員の1割を超えた場合は、当該候補者は信任されません（同3項）。

2021年1月10日までに投函してください。候補者全員を信任する場合は、返送の必要はありません。

ウェビナー告知板

Web セミナー (参加費: 3,000 円)

- 17回 2021年1月13日(水) パネリスト: 中本知之, 澤幡佳孝
カリエスリスクアセスメント標準化の実際
～日本発のCRASPで、誰でも、どこでも、いつからでも～
- 18回 2021年1月20日(水) パネリスト: 杉山精一
カリエスマネジメントセミナー 第7回【全7回/最終回】
- 19回 2021年1月22日(金) パネリスト: 杉山精一
カリエスマネジメントセミナー (20:00～約90分 どちらでも参加できます!)
- 20回 2021年1月27日(水) パネリスト: 齊藤仁
- 21回 2021年2月3日(水) パネリスト: 田淵貴大 (外部講師)
「新型タバコ」について医療関係者が知っておくべきこと
20:00～約90分)
- 22回 2021年2月24日(水) パネリスト: 齊藤仁
- 23回 2021年3月3日(水) パネリスト: 杉山精一
- 24回 2021年3月10日(水) パネリスト: 杉山精一
- 25回 2021年3月24日(水) パネリスト: 齊藤仁
- 26回 2021年3月31日(水) パネリスト: 高木景子

※ウェビナーの参加費をヘルス通貨(日本ヘルスケア歯科学会内互助通貨)と交換にて後日返金することが可能です。申込はPayPal支払いでの登録が必須となっておりますので、申込後にヘルス通貨使用の旨を事務局にメールまたはFAXにてお知らせください。お持ちのヘルス通貨を確認後、返金手続きといたします(返金手数料は事務局負担)。1セミナー:5ヘルス



Web セミナー

オンラインサロン (参加費無料 要事前登録) 毎週火曜日

- 22回 2021年1月12日 ホスト: 渡辺勝
演者の話を鵜呑みにしてませんか?
- 23回 2021年1月19日 ホスト: 林浩司 ゲスト: 沼澤秀之
スタッフが辞めない歯科医院とは? 第2弾
- 24回 2021年1月26日 ホスト: 中本知之
「動画コンテンツの活用」について話そう!
- 25回 2021年2月2日 ホスト: 高木景子



オンラインサロン

ウェビナーの参加は会員に限りです。参加希望される方は学会ホームページよりお申し込みください。お申込み後、自動で申込完了メールが届きます。Zoom ミーティングの URL が記載されていますので、こちらからご参加ください。もしメールが届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

21回 Web セミナー 2021年2月3日 20:00～(90分) 「新型タバコ」について医療関係者が知っておくべきこと



田淵貴大 (大阪国際がんセンター がん対策センター 疫学統計部)

日本では、加熱式タバコなどの新型タバコがすでに流行してしまっ。本稿では、日本における加熱式タバコ製品使用の実態について UPDATE したのち、新型タバコ問題、ニコチンを巡る議論の動向、そして社会のあるべき姿について考えを述べる。

ニコチン入りリキッドの電子タバコが欧米諸国で流行している一方、日本では加熱式タバコが流行している。フィリップモリス社は加熱式タバコ IQOS (アイコス) を開発し、2014年に販売を開始した。日本タバコ産業 (JT) は2016年に Ploom TECH (ブルームテック)、2019年に PloomS (ブルーム・エス) の販売を開始した。プリティッシュ・アメリカン・タバコ社は2016年に Glo (グロー)、インベリアル・タバコ社は2019年に PULZE (パルズ) の販売を開始した。

加熱式タバコ・アイコスは日本で急速に普及し、アイコスの販売世界シェアの80%以上が日本であり、日本が加熱式タバコの実験場となっているのである。

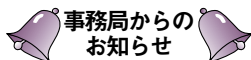
多くの人有害性について誤解をしているが、新型タバコの有害性が近年報告されてきている。新型タバコからも従来からのタバコと同じ化学物質が放出されると分かっているから、当然新型タバコ使用は有害だろうと考えられる。しかし、社会は加熱式タバコを特別扱いするルールとしてしまった。新型タバコの有害性を正しく理解するだけでなく、法律など社会のルールのあるべき姿に関しても議論をしていかなければならない。

略歴:

2001年3月岡山大学医学部卒。血液内科臨床医を経て、医学博士(大阪大学大学院:公衆衛生学教室)取得後、2011年4月から大阪国際がんセンター勤務。

2018年後藤喜代子ポールブルダリ科学賞受賞。専門は公衆衛生学。タバコ対策や健康格差の研究に取り組んでいる。

著書に「新型タバコの本当のリスク」(内外出版社:2019年)。



事務局からの
お知らせ

健康手帳 予約カード 頒布中止のお知らせ

健康手帳 予約カード(大人・子ども共通)の院名印刷につきまして、希望者が少なく、生産コストに引き合わなくなりました。そのため、当面頒布を中止させていただきます。

また、院名なしの予約カードにつきましても、現在庫をもって欠品とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解のほど、よろしくお願い致します。

譲ります/差し上げます

メートルグラス 20ml (オーラルケア社製)

唾液検査のための20mlのメートルグラス。ガラス製、オートクレーブ可、中古。

唾液を集め、分泌速度の測定に用います。その後、メートルグラスに集めた唾液をデントカルト LB の培地上に流します。

18本までなら何本でも可。送料は着払いになります。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

「人生 100 年時代のカリエスマネジメント」

2021 年 10 月 10 日 (日) 10:00 ~ 16:00

KFC ホール (東京・両国) および Zoom ウェビナー (YouTube 配信あり)

東京都墨田区横網 1-6-1 国際ファッションセンタービル (<https://www.tokyo-kfc.co.jp/>)

カリエスリスク研究で著名なコペンハーゲン大学のトゥエットマン教授を招き、大阪大学の林美加子教授とともに「人生 100 年時代のカリエスマネジメント」をテーマにシンポジウムを開催します。

プログラム (仮)

企画趣旨

杉山 精一 (日本ヘルスケア歯科学会代表 八千代市開業)

生涯にわたるカリエスマネジメント ICCMS

林 美加子 (大阪大学大学院歯学研究科 教授)

カリエスリスクアセスメント 考え方の変遷と今後

Svante Twetman (コペンハーゲン大学 名誉教授)

通訳 石塚 洋一 (東京歯科大学)

新しいカリエスリスクアセスメント CRASP

杉山 精一

カリエスマネジメント長期症例 (小児若年者, 成人, 高齢者)

コアメンバー

ディスカッション



Svante Twetman (スヴァンテ・トゥエットマン), DDS, PhD, Odont. Dr.

デンマーク・コペンハーゲン大学保健医療科学部カリオロジーおよび小児歯科講座教授を経て現在同大学名誉教授

2010 年 IADR Distinguished Scientist Award 受賞

2011 年 IADR Borrow Award 受賞

スウェーデン王立カロリンスカ大学卒, 同大学歯学部で博士号を取得. 主な研究テーマは, 口腔疾患のリスク評価と予防, 特にフッ化物, 抗菌剤, 糖代替物, プレ・プロバイオティクスに重点を置いた口腔内と微生物の生態に焦点をあてた研究. その研究は大部分が臨床の場で行われている. 先進国だけでなく発展途上国でも世界各地で講演を行い, いくつかの教科書の著者で, 多数の科学論文を発表している.



林 美加子 大阪大学大学院歯学研究科 教授

大阪大学歯学部卒業後, 1994 年から同大歯学部附属病院助手, 2005 年講師, 2011 年准教授を経て, 2012 年より歯学研究科教授 (口腔科学専攻)

2017 年 IADR Innovation of Oral Care Award 受賞

2018 年 一般社団法人 Alliance for a Cavity-Free Future 日本支部設立